シリーズ

多文化共生を語ろう!

シリーズ最終回は、行政や地域の事業主の方たちと共に、地域の活性化と“ほんとうの多文化共生”を目指して、多岐にわたり活動されているペルー出身の平識 豪さんです。

私たち、ひとりひとりがつくる社会『多文化社会』

雄飛株式会社代表取締役　**平 識　豪**

1991年5月、私は当時10歳で来日しました。私は地元の小学校に通い、言葉も分からず、もちろんいじめに遭うこともありました。中学校ではサッカー部に入部し、スポーツを通じて友達もできましたが、授業は理解できませんでした。高校受験が近づいても、進学すべきかの判断ができませんでした。なぜなら、ペルーでは、5年制の中学を卒業した後は働くのが普通でした。幸いサッカーで知り合った日本人から「日本で生活したいなら高校を出なさい。」と教えられ、高校と専門学校を卒業をした後、通訳の仕事や人材派遣会社に勤めました。

振り返ると就職活動の中で一番苦労したのは人種差別でした。一人の人間としてではなく、外国人として見られていました。2008年に人材派遣業の会社を起こしました。人と人がつながる場を作りたいと思ったからです。当時に比べ、外国籍住民が暮らしやすい環境は整いましたが、地域になじめない本質がありました。親は日本人との交流がないため、子どもの進学の重要性をなかなか理解せず、子どもも苦労して勉強するより早く稼いで外国人コミュニティーの中で楽しく過ごすと言う方向へ流れていました。日本人と交流するサッカー教室を企画したこともありましたが、もっと間口を広げる必要を感じました。深谷市の職員に現状を話し、市内のイベントを通じて、食の関心は世界共通、多くの外国の人たちに来てもらいたいのと、日本の人たちにも文化を知ってもらいたいという気持ちで「郷土自慢料理対決」にも参加し、高評価を頂きました。

現在、深谷市産業振興課がすすめる『ゆめ☆たまご』プロジェクトに参加しています。テーマは産×学×官の連携です。深谷市内のいろいろんな企業と連携をとり、わが町の産業、教育、文化の魅力を、深谷市民をはじめ、たくさんの皆様に知ってもらうことが第一だと考えています。国籍に関係なく、昔から伝えられてきたことや新たな文化はもちろんのこと深谷市を元気にさせる目的で取り組んでいます。『ゆめ☆たまご』の連携で地元の食品会社、市内飲食店の経営者らの力でペルーの万能ソース“ワンカイイナ”を商品化し、地元の大手スーパーに期間限定で販売することもできました。今でも深谷市内の飲食店で使用されています。

また、新たな取り組みとして地域密着型総合スポーツクラブを今年2月に設立しました。スポーツを通じて子ども達が心身共に成長出来る環境づくりを目標に、それぞれの個の力を発揮させながら、ルール、コミュニケーション、心構え、判断力、行動を身に付けながら、スポーツを通して社会人との基礎を育成出来ればと思います。ここでは国籍も関係なく自然な状態で外国人が日本語を身につけ、日本人もスペイン語や外国の文化を自然に理解してくれることを目指しています。地元の市民に応援されるチームをつくることで、日本人と外国人のコミュニティーをつくりたいと考えています。

ほんとうの多文化共生とは、外国人が日本文化を一方的に理解するだけでは不十分。日本人も外国文化を理解しなければなりません。お互いの文化の良さを認め合い、互いに吸収し合うことが、ほんとうの多文化共生ではないかと考えています。

私が学んだこと－国籍も言葉も関係なく、学ぶことを忘れたら教えることができません。

自分から変わらなければ相手が変わらない。まずはここから始めませんか？